

上級研究員センターの創設による人材養成

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：愛媛大学（代表者：柳澤 康信）

課題の概要

専門分野や研究室単位の採用制度による弊害を減殺するために、若手研究者を 5 年任期年俸制の上級研究員として国内外から公募採用し、新設の上級研究員センター所属とし、先端研究センターで自立的に研究できるシステムをつくる。また、学部・大学院での教育担当によって大学教員としての素養を身に付けさせ、特に大学院生への指導力を高めることによって、次代の先端研究のリーダーとして育成する。研究成果及び教育実績の審査によってテニュア資格を与え、先端研究センター等の准教授等として採用する。将来的には、学部・研究科における職位構成を是正するために偏重している教授ポストを削減し、その人件費を上級研究員の原資とした上で、上級研究員センターを学部等のテニュアトラックとして活用する制度を築く。

(1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

機関執行部の方針を明確に打ち出し、人材養成システム改革の定着化に向けて着実な努力がなされ、テニュアトラック制の運営・継続・発展に関する綿密な検討を基に PDCA サイクルを適切に回しながら新しい試みを着実に実施していることは評価できる。一方、育成組織としての上級研究員センターと既存部局との整合性に十分配慮し、先駆的に構築した機関全体の FD システムを活用しつつテニュアトラック制の定着化に向けた更なる努力を期待する。

<総合評価：A>

(2) 個別評価

①国際公募・選考・業績評価

国際公募が計画どおりに行われ、選考・採用基準も明確に設定されており、選考から採用に至るまでの全てのプロセスに外部委員が関与し優れた体制を構築していることは評価できる。今後は、外部委員として国内だけでなく、海外有識者の参画を期待する。また、テニュアトラック教員の年次・中間評価の手順とテニュア審査基準が既に開示されているものの、研究業績に関してインパクトファクターや外部資金獲得等の数量的基準に偏重している面もあり、より柔軟な基準の策定を期待する。さらに、外国籍研究者及び女性研究者の応募者数が少数にとどまっており採用もそれぞれ 1 名と少ないため、今後は国際公募のプロセス・内容・広報媒体等を検証し、改善することを期待する。

②人材養成システム改革（上記①以外の制度設計に基づく実施内容・実績）

一般教員を対象として開発した FD・RD などの教育プログラムをテニュアトラック教員に前倒しで受講させ、授業担当や研究指導の認定を行った上で特任講師の名称を付与し、教育能力開発を行う等制度的工夫は評価できる。テニュアトラック教員によるシンポジウムの企画運営等リーダーシップやマネジメント力の育成、テニュアトラック教員間の融合・自主活動を高める企画とその実績も評価できるが、海外での研究経験がないテニュアトラック教員に対する国際性涵養のための施策の実施を期待する。さらに、上級研究員センターに所属しているテニュアトラック教員の既存部局に対する役割をより明確にするとともに、科学者としての倫理感を涵養する施策を

立案・実施することも期待する。

③人材養成システム改革（上記①以外の制度設計に対するマネジメント）

総括責任者のリーダーシップの下に適切に PDCA サイクルが機能しており、「教育研究高度化支援室」にラボマネージャー（研究設備機器の使用と技術面の管理・指導）及びリサーチアドミニストレーター（競争的資金の申請・執行支援等の教育研究支援）を配置したテニュアトラック教員支援体制は評価できる。本課題では意欲的な目標を掲げているものの、その実現にはテニュアトラック制導入に対する部局への周知と理解を得ることが必要であり、一層の努力を期待する。また、テニュアトラック教員の自立性確保について検証し、適切な措置を行うこと及びテニュアトラック教員を支援しているポストドクターのキャリアアップと任期終了後の処遇についても、より積極的な施策の立案とその実施を期待する。

④実施期間終了までの進め方

課題実施2年度目から自主経費によるテニュアトラック教員の採用を開始するとともにテニュアトラック教員全員分の上位のテニュア職位を用意し、人文社会系でのテニュアトラック制導入を検討しているなど、人材養成システム改革の機関全体での実現を期待する。さらに、上級研究員センターの組織的位置付けの明確化と発展の方向性に関して早急に検討を行い、課題実施期間終了までに結論を得ることを期待する。

⑤実施期間終了以降の継続性・発展性

定年退職ポスト及び削減を計画している教授ポストをテニュアトラック・プールの原資とし、任期制で採用する助教（理系）と講師（文系）の50%及び教育経験が充分でない者をテニュアトラック制によって採用して教育・研究能力の向上を目指したアカデミック・ディベロップメントと、研究支援を図る計画及びテニュアトラック制に馴染まない分野での従来型採用方式の二本立ての人材養成システム改革は特色豊かで継続性・発展性が期待できる。今後は上級研究員センターの在り方の再検討、部局と十分協議しポストをテニュアトラック・プールに配置する計画の実現性を確実にすることも期待する。

（3）評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革（制度設計に基づく実施内容・実績）	人材養成システム改革（制度設計に対するマネジメント）	実施期間終了までの進め方	実施期間終了以降の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a